

1. Introduction

- 時間に関する基本的な形而上学的疑問
 - (1) 過去のこと、現在のこと、未来のことには客観的な違いがあるのか?
 - (2) 現在の出来事やモノは、過去や未来に完全に属する出来事やモノよりも何らかの意味で実在性を帯びているのか。
 - Zimmerman: Yes to (1) & (2)
 - 我々の多くにとって現在/過去/未来の区別は容易に手放せるものではない
 - ところが、20世紀を通して、時間を経るにしたがって多くの哲学者が(1)(2)に否定的な答えをするようになった。
 - Zimmermanによる(1)(2)への肯定的返答の養護は二つの部分からなる。
 - (1)を肯定する理論のうち、(2)を否定する理論に対する反論を行う。
 - (1)(2)を肯定する時間の形而上学を棄却/採用する複数の議論を吟味。
 - (1)(2)への肯定的返答を棄却する形而上学的/科学的議論には欠点
過去/現在/未来の実在的な区別を信じることはある意味で好ましい
「疑わしきは罰せず」

2. A-Theories and B-Theories

- A-series vs. B-series [p.212 At the beginning of...]
 - A-series: 遠い過去から、近い過去、現在、近い未来、遠い未来へと（あるいは逆に）続く一連の時点
 - A-properties: 「過去である」「現在である」「未来である」
 - B-series: より早い位置からより遅い位置に（あるいはその逆に）続く一連の時点
 - B-relations: 「より早い」「より遅い」「と同時」
- A-theorists vs. B-theorists [p.212 Metaphysicians who argue...]
 - A-theorists: A-properties が基礎的で、B-relations が派生的
 - 過去/現在/未来に客観的区別を認める。(1): Yes
 - 現在は、会話、時間、参照枠などの時間的事物に依存しないかたちで、過去と未来からは区別される。
 - B-theorists: B-relations が基礎的で、A-properties が派生的
 - 過去/現在/未来に関する我々の語りは客観性にもとづかない。
 - 過去/現在/未来について語るとき、我々は、物事の時系列的位置を、そ

の語りがなされた時点という特定の時系列的位置に基づいて相対的に記述しているにすぎない。

- A-theorists のなかでも過去/現在/未来の客観的区別の厳密な性質については異論がある。しかし、多くの A-theorists は(2)に肯定的に答える。

在り
nature = 何じけとさ

3. Competing Versions of the A-theory

- 3種類の A-theory
 - 現在主義 (Presentism) [p.212 Consider some...]
現在に属する出来事、個体のみが存在する。完全に過去に属する出来事/モノはもはや存在せず、完全に未来に属する出来事/モノはまだ存在しない。
e.g., テキストの文章を読むという出来事; 太陽における陽電子
 - 時間の一時点はその時点に起こるすべての出来事の sum であると考えらるならば、過去または未来の時点は、現在主義によれば存在しない出来事で成り立っている。
 - (過去/未来の出来事、個体に加えて) 過去/未来という時間自体も存在しない。Cf. アウグスティヌス

- 「動くスポットライト」A理論 ("Moving-spotlight" A-theory)

[p. 213 Some A-theorists are not...]

- 我々は未来の出来事を予期したり、過去の出来事を思い出ししたりできる。
- 我々とこのような関係にたつことができる限り、過去/未来の出来事や個体はなんらかの実在性をもつはずだ。
- 現実には複数の時間における出来事から、四次元の列のような形で成り立っている。そのなかで、現在の出来事だけが、真に実在している。それはここにある。現在はこの四次元の宇宙を動いていくスポットライトである。Cf. アウグスティヌス「隠れ家」
- 過去や未来の出来事やモノも、世界には存在している。しかし、現在に属するものは「(スポットライトで) 照らされている」という意味で特別である。

if it is discernible

■ 「積み上がるブロック」A理論 (“Growing-block” A-theory)

[p.214 An intermediate form...]

- 過去と未来の出来事、モノの実在性は認めるが、未来の出来事、モノの実在性は認めない。
- 現在は、それ以降に全く出来事が存在しない、という意味で過去から区別される。

- スポットライト理論とブロック理論は上記疑問 (2) 「現在の出来事やモノは、過去や未来に完全に属する出来事やモノよりも何らかの意味で実在性を帯びているのか」にどう答えるか [p.214 What makes present...]

- スポットライト理論とブロック理論にとって、現在であるとはどのようなことか
 - スポットライト理論: それ以外のいかなる変化を被ることなく、出来事はスポットライトによる「現在性」を得たり、失ったりできる。スポットライトによる現在性は極限まで「薄い (thin)」性質 (cf. McTaggart が批判のターゲットとしたスポットライト理論)
 - ブロック理論: 現在であることは、四次元に広がった拡大していく宇宙 (i.e. ブロック) の最先端 (cutting edge) に位置することに過ぎない。現在でなくなり、過去になることには、なんの内在的な変化も伴わない。(cf. Broad)
- スポットライト理論とブロック理論は(2)に対して無条件の肯定を示さない。

[p. 214 These two “thin”...]

- スポットライト理論: (2)に対する完全な否定
現在は、「現在性」という特殊な「薄い」性質をもっているが、この性質以外に現在と過去/未来には、何らの興味深い区別はない。したがって、現在は特権的な実在性をもたない。
- ブロック理論: (2)に対する部分的な否定
現在は、ブロックの最先端であるという「薄い」性質以外に過去と何ら興味深い区別をもたない。一方で未来はまだ存在しないため、未来と現在のあいだには区別が存在する。

- Zimmerman が擁護したい A-theory は、スポットライト理論でもブロック理論でもない [p. 214 Neither of these...]

- スポットライト/ブロック理論は「なぜ我々はものごとが現在のものであるかを気にかけるのか」という疑問に答えられない。

- スポットライト/ブロック理論は、我々が苦痛が過去のものになったときに安心し、喜ばしい出来事が過去のものになったとき落胆する、という事実を説明出来ない。

- スポットライト/ブロック理論によれば、もしも、スポットライトが与えられている/ブロックの最先端にあるときに、苦痛が内在的に痛みを伴うものである場合に、スポットライトが通過すること/新たなブロックが積み重なることは、その苦痛の内在的な性質を変えないはずだ。

- たとえ、スポットライトが通過すること/新たなブロックが積み重なることによって我々の苦痛に対する態度が変化する、と認めたとしても、スポットライト/ブロック理論は「我々はいかにして、スポットライトが通過したこと/新たなブロックが積み重なったこと (i.e. ある出来事が現在ではなくなったこと) を知ることができるのか?」という疑問に答えられない。

- スポットライト/ブロック理論によれば「ある出来事が現在のものである」という我々の信念にかかわる心理的/物理的状態は、時間が経ても内在的に変わらないはずである。

- 我々は「ある出来事が現在のものである」というタイプのある時点で真でも、時が経るやいなや偽になってしまうような信念を持ち続けることになってしまう。(現実には我々はそのようなタイプの信念は時が経てば偽になると知っているにも関わらず)

- 近年のスポットライト/ブロック理論においては、これらの疑問に答えることができる (ようにみえる)。[p.215 Some recent...]

- 近年のスポットライト/ブロック理論は少なくとも一部の出来事やモノは現在に属する場合と、そうでない場合では (単なる「現実性」だけではなく) 内在的性質を異にすると主張する。E.g., 過去と未来の出来事やモノは空間的位置をもたない; まだ作られていないテーブル/すでに壊されたテーブルは、形、材質、色といった内在的性質をもたない。(cf. Williamson: 過去/未来のテーブルはテーブルという種にも属さない)

- 苦痛に関する疑問は以下のように答えられる「苦痛は現在に属すると

きにのみ『真に』苦しみを伴なう。昨日の苦痛は、存在するものものはや苦しみを伴わない。昨日の苦痛は「以前に苦しみを伴った」という性質 - 「苦痛を伴なう」という性質に対する一種の過去志向的関係をもっている。

- 現在に関する知識に関しては以下のように答えられる。「現在に関する観察 (observation) はその観察が現在のものであるときのみ、『実際に』おこっている。もしその観察が過去のものとなれば、もはやそれは『実際に』起こっている観察とは別の性質をもつ心的状態になる」
- しかし、近年のスポットライト/ブロック理論は、望ましくない帰結をもつ。
[p. 215 Although this view...]
- 真に苦痛を伴わない頭痛の存在、実際には生存しない、はたまた空間的位置さえもない馬の存在など、極度に「薄い」過去のモノや出来事存在にコミットしなければならない。
- もし、スポットライト/ブロック主義者が上のような主張を弱めようとするれば「過去の頭痛も『ある種のかたちでは (sort of)』苦痛を伴い、我々はそれを『ある種のかたちで』気づいている」というようなことを言わなければならない。
- しかし、過去の出来事やモノにおいて『ある種のかたちで』内在的性質が存在しているなら、「なぜ我々は現在のみを気にかけるのか」ということが再び疑問となる。(すなわち、なぜ『ある種のかたち』の性質は我々の気にかける対象とはならないのか?)
- また、我々が過去の出来事やモノの性質について『ある種のかたちで』気付いているなら、再び「なぜ我々はそれが現在の出来事やモノではなくなったことをしることができるのか」ということが疑問となる。
(すなわち、現在に関する『ある種のかたち』での我々の信念はそれが過去のものになろうと変わらないはずなのに、なぜ我々は時間が経てばそれが偽になると分かるのか?)

- 結論: 現在主義者以外の A-theory はうまくいかない。A-theorist になるなら現在主義者になろう

4. Yes, But Is It True?

- しかし、A-theory はそもそも正しいのか? この章の残りでは A-theory に対する反論を吟味する
 - (特殊または一般) 相対性理論以前にも提示できる種類の反論
 - 時間に関する科学研究とは独立の形而上学的原理に依存した議論
これらの原理は問題ぶくみであることが多い。これらの原理に依存した議論は、妥当だと認められている主張に対する多くの他の反論と同様 (かそれ以上に) 棄却するのが容易である。
 - もっとも人気のあるこのタイプの反論は「真理制作 (truthmaking)」にもとづくもの。
 - 相対性理論以後に可能となった種類の反論
 - 「相対性理論と A-theory は矛盾する」

5. An Objection to Presentism Based on the Need for "Truthmakers"

6. Objections to the A-Theory Based on Relativity

7. Why Think the A-Theory Is True?